

## スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大学名	北海道大学
整理番号	A01
構想名	Hokkaidoユニバーサルキャンパス・イニシアチブ ～世界に開かれ世界と協働～

### ◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価)  <b>A</b>	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
<p>(コメント)</p> <p>本構想は、ガバナンス強化プランを軸に4教育改革プランと4システム改革プランを推進する「1-4-4改革プラン」により、北海道大学の伝統・特色・強みを踏まえて、世界の課題解決に貢献する人材を育成し、国際通用性の向上と国際競争力の強化を目的とするものであり、全体として改革プランのそれぞれが当初の計画に沿って着実に進められていると評価できる。</p> <p>本構想の中核である教育改革において、世界から一線級の研究者を招へいし、北海道大学教員との協働で、北海道内のフィールドを活用した実習やアクティブ・ラーニング型の授業など多数の科目を、Hokkaidoサマー・インスティテュートとして英語で開講しており、令和元年度の招へい研究者は210名(目標:90名)、参加学生は延べ4,627名(目標:3,000名)、その内、海外からの参加学生は30カ国より延べ660名に達する取組に発展しており注目に値する。</p> <p>さらに、グローバル社会で活躍するためのスキルとマインドを習得させる新渡戸カレッジ・新渡戸スクールについても、両者を6年一貫の特別教育プログラムとして統合し、実施内容を改善することにより、令和元年度までに学部生543名、大学院生402名の修了を認定し、着実に成果を挙げていることも高く評価できる。</p> <p>加えて、海外ラーニング・サテライトの展開や海外機関との共同教育プログラムの積極的な開拓も進められている。また、外国籍教員数及び海外からの留学生数や国際共著論文率が、目標を越えて増加しており、教育研究の国際化が図られている。</p> <p>しかしながら、日本人学生の海外派遣については、前回の中間評価以降、大学院学生については一定増加しているが、学部学生については伸びておらず、目標が高いとはいえ、それを大きく下回っている。また、大学院学生の研究指導派遣も低水準に止まっている。学内における留学生との共修体制の拡充に満足せずに、海外派遣・留学の積極的な推進を期待したい。</p> <p>また、国際連携研究教育局において推進されている国際共同研究を基盤とし、「国際大学院」の設置が進められていることも重要な取組である。しかし、そこにおける国際協働教育の成果・インパクトが、まだ明瞭になっていないように感ずる。他のダブル・ディグリーやコチュテル等の国際協働教育プログラムを含め、一層の積極的な取組を期待したい。</p> <p>本構想の自走化に向けても、事務組織等の基盤整備と財源確保のための寄附金獲得の強化や本事業の教育プログラムによる自己収入獲得が検討・推進されていることは評価できるが、それらに加えて、一層の財源確保に向けた新たな積極的取組も必要である。</p>	